

理工学研究科（理学系）の教育目標及び3つのポリシーについて

【教育目標】

山形大学大学院の教育目標を踏まえ、理工学研究科では、種々の分野で先端科学技術を将来にわたり維持し発展させるために、広範な基礎学力に基づいた高度の専門知識と能力を兼ね備えた、柔軟で独創性豊かな科学者・技術者の養成を目標としています。

【修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】

山形大学大学院の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、理工学研究科（理学系）では、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「修士・博士」の学位を授与します。

1 高度な専門職従事者としての知識と技能

- (1) 先端科学技術の発展に貢献する意欲を持ち、研究推進に不可欠な高い倫理観を身に付けている。
- (2) 科学技術を支える幅広い理学の基礎知識を身に付けている。
- (3) 先端科学技術の高度で体系的な専門的知識と経験を身に付けている。

2 課題解決能力・新領域の開拓能力

- (1) 独自の課題を発見し、自ら解決する能力を身に付けている。
- (2) 学会活動や共同研究において主体的に関われる能力を身に付けている。
- (3) 分野で異なる論理や方法論から、新たな考え方を創出できる。
- (4) 研究成果を公表するためのプレゼンテーションやディスカッションの能力を身に付けている。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

山形大学大学院の教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、理工学研究科（理学系）では、学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1 教育課程の編成・実施等

- (1) 高度専門職業人が有すべき基礎・基盤となる科目や研究テーマに合わせて必要な科目が履修できるカリキュラムを編成する。
- (2) 分野にかかわらず共通に求められる基盤的な素養、幅広い知識、多角的な視点・思考法を身に付けるための講義を配置する。

- (3) 自立した研究者や技術者等として必要な能力や技法を身に付けるため、セミナー形式の演習科目を設ける。

2 教育方法

- (1) 分野間で異なる論理や方法論を理解させるため、他分野の学生との協同を促す。
- (2) 専門分野の深い知識と技能を身に付けさせるため、最新の学術書を積極的に活用する。
- (3) 学位論文の作成に際しては、複数の指導教員が一体となり、研究の内容・結果・解析法等を確認・指導する。

3 教育評価

- (1) 講義科目では、到達度を確認出来る明確な成績評価基準に基づく評価を行う。
- (2) 博士前期課程及び博士後期課程（理学系）の学位基準に基づき、学位論文を評価する。

【入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)】

理工学研究科（理学系）は、種々の分野で先端科学技術を将来にわたり維持し発展させるために、広範な基礎学力に基づいた高度の専門知識と能力を備えた、柔軟で独創性豊かな科学者・技術者の養成を目的としています。

博士前期課程

(理学専攻)

博士前期課程では、専門とする分野の深い知識と技能とともに、幅広い理学の知識を兼ね備え、異なる分野の知識や研究成果を総合して新たな理論や技術を生み出す人材を養成し、科学技術の社会的利用において不可欠となる情報セキュリティ、知的財産、法令順守、安全衛生管理に関する確かな理解を持ち、優れた社会性と倫理性を備えて、科学技術の発展に貢献する人材を育てることを目標としています。

博士前期課程の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- 理学的な基礎学力を有し、自然の真理の探究に強い意欲を持てる人
- 急速な社会の変化と科学技術革新に対応する意欲を持つ人
- 研究、技術開発、教育等によって社会に貢献することを目指す人

◆入学者選抜の基本方針

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

- (1) 一般入試（口述試験及び面接、志望理由書、TOEIC® TEST 成績証明書及び出身大学から提出された成績証明書の結果を総合して判定）
- (2) 社会人入試（口述試験及び面接、志望理由書、出身大学から提出された成績証明書の結果、研究計画書（研究希望調書）及び業績報告書を総合して判定）
- (3) 外国人留学生入試（口述試験及び面接、志望理由書、出身大学から提出された成績証明書の結果を総合して判定）
- (4) 推薦入試（口述試験及び面接、自己推薦書、志望理由書、TOEIC® TEST 成績証明書及び出身大学から提出された成績証明書の結果を総合して判定）